

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171200585
法人名	ALSOK介護株式会社
事業所名	グループホームみんなの家・三郷
所在地	埼玉県三郷市早稲田2-26-17
自己評価作成日	令和3年9月7日
評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が安心安全に過ごせる環境作りを心掛けている。意思を尊重し、一人ひとりの個性を大切にしながらケアに努めている。職員は個々に寄り添い、残存機能の活用に努め、ホーム内では四季を感じて頂けるよう、ご利用者様と職員で制作した壁画や写真を飾っている。手先が器用な方、歌がお好きな方、習字が得意な方など、其々に合わせたレクリエーションを実施し、職員共々「みんなで笑顔になれる環境作り」をお手伝いさせて頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ
所在地	東京都千代田区麹町1-5-4-712
訪問調査日	令和3年9月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時のアセスメントでは自宅での様子や生活歴、性格、価値観、趣味嗜好などの詳細な聞き取りを行い、利用者の情報収集に努めている。また、入居後においても日々の生活の様子を記録し職員間で共有して、利用者一人ひとりに合った支援やレクリエーション活動が行えるように個別支援に努めている。レクリエーション活動としては、演歌や歌謡曲、童謡などの歌のレクリエーション活動が人気となっており、実施をすることが多い。また、身体を使った体操や洗濯たみ、食器拭きなどの家事も行い、利用者一人ひとりの心身状況に合ったものを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念に基づき、サービスを提供できるよう心掛けている。 職員同士で情報共有しながら適切なサービス提供に努めている。	職員会議や朝礼などで理念について話し、必ず最後に職員に確認し周知に努めている。 日常的にも、管理者だけでなく職員同士でも声をかけあい、理念の共有に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で地域の盆踊りは中止になっている。 町内の情報は回覧板を通して収集し、散歩で近所の方と会う際は挨拶を心掛けている。	ボランティアの定期的な訪問、地域行事への参加、職員の町会掃除参加など地域と交流に取り組んでいるが、コロナ禍においては中止している。近隣への散歩、駐車場でのお茶会などを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	質問を頂いた時などは認知症について説明し、ご家族様がホームにお見えになった時やお電話を頂いた時はご利用者様の近況報告をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナウイルスの影響で2020年4月より開催中止となっているが、ご家族様と三郷市介護保険課には、都度中止の旨とホーム内の様子を郵送にて報告させて頂いている。	運営推進会議では家族や市役所、地域包括などが参加し意見交換を行っていた事が議事録で確認できているが、コロナ禍において中止している。連絡等は継続している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と協力していけるよう、情報提供や共有を行っている。	地域包括の職員が定期的な訪問は現在中止となっている。市役所へは毎月訪問し事業所の情報を伝えたり、役所主催の研修への参加などにより協力関係継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事案はなく、これからも身体拘束ゼロを維持する為、事業所内で身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回、研修を年2回開催し、職員間で情報共有している。	身体拘束委員会は3か月に1回、研修を年2回実施している。また、解りづらいグレーゾーンについても、理解を深めるために職員にアンケートを配ったり意見交換を行ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催し、虐待防止に向けて事例を織り交ぜながら、勉強の場を作り防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議、職員間の情報交換や共有にて理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や質問などが出た場合は、その都度説明させて頂く時間を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など疑問や要望があった場合は、傾聴して不安解消に努め、運営に反映させている。	平日に定期的に家族会の開催があったことは、議事録で確認している。現在は電話でのやり取りをしており、意見や要望は各会議で職員と共有し運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで意見交換をしたり、面談を行い職員の意見を聞く環境を作っている。	個人面談や本部マネージャーが職員会議に参加する機会などで職員意見を把握できるようにしている。フロア会議での意見はリーダー会議で検討し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や頑張りを褒め、改善すべき点は面談などを用いて本人の知識向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議での勉強会や、研修に参加できる機会を設け、技量を高めていけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と連携し、ネットワークを通じて交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の不安や要望を聞き入れながら、安全を第一とし、各ご利用者様に合ったサービスの提供を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には電話やお便りにて日々の状況を報告している。 疑問や要望などがあれば耳を傾け、定期的に連絡を取るようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様が必要とするサービスを提供する為、ご家族様と情報交換し、理解を深めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様一人ひとりに役割を持って頂き、支え合いながら生活して頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、お便りを発信し、日々の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	天気の良い日は散歩に行かれ、ご近所の方に会った時は挨拶を交わしている。 コロナ禍以前は、ご家族様やご友人が来設された際、交流して頂くよう努めていた。	馴染みの理髪店に行ったり、家族と墓参りや自宅近くで外食をしたりする機会を設けていたが、現在は手紙や電話の取り次ぎの支援としている。コロナ収束後には、馴染みの関係継続を再開することを検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各階のご利用者様同士が関わり合いを持てるよう、ご利用者様の関係を把握し、共に交流を持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、経過を把握できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、ご利用者様とコミュニケーションを図り、意向を把握できるよう努めている。	入居時のアセスメントにて利用者・家族の意向や詳細な情報を収集し、支援に反映するように努めている。施設での生活の様子を支援経過に記録し、日々の様子から利用者の意向などを読み取るように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の基本情報や生活歴を元に、ご家族様からもお話を聞き、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態やADLを把握、職員間で情報共有し、自立支援を目指すことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の要望、ご本人様の要望を聞き、主治医と連携をしながらモニタリングやアセスメントを作成している。 状況に応じて介護計画の見直しを行っている。	ケアプラン見直し時には電話連絡で聞いた家族の意向や要望、主治医の意見などを把握して、サービス担当者会議を開催し、意見交換を行っている。それらを踏まえてモニタリングや再アセスメントを行ってケアプランの更新をしている。	コロナ禍において家族のサービス担当者会議の出席が難しくなっている。状況に合わせて出席の促しなどの検討も望まれる。利用者のサービス担当者会議出席なども検討されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録から課題を抽出し、実践や介護計画への反映、見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご本人様のニーズに合わせ、既存のサービスと織り交ぜながら柔軟なサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源を把握し、趣味や嗜好が発揮できるような環境を作り、楽しく暮らしていけるよう支援させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診を利用しながら、適切な医療を受けられるよう支援させて頂いている。	提携医院の内科医往診は、全体往診と個人往診を毎月実施している。また、週1回の訪問看護があり、医療との連携を行っている。利用者や家族が希望する医師への通院は家族対応となるが可能であり、事業所と連携し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時、状態変化などがあれば報告、相談し、適切な医療を受けられるよう支援させて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された際には、早期退院に向けて医療機関と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期に向けた方針に基づき、ご家族様や医師との話し合いを設け支援に取り組んでいる。	入居時には重度化や看取りに関する指針を重要事項説明書などを用いて家族に説明している。また、看取りに移行する際には看取りに関する説明を利用者や家族に行い、主治医から直接の説明も行っている。	重度化により事業所での対応が困難な医療処置が生じた場合には、重要事項説明書やホームページでの詳細な記載により説明を行っているが、詳細な内容の同意書を交わす書面でのやりとりも望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを掲示し、全職員が速やかに対応、実践できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難経路や避難方法を職員が身につけ把握するよう努めている。	毎年、消防署による防災機器点検の実施や年2回の防災訓練を行っている。コロナ禍においても感染予防を徹底しながら消防署が参加する防災訓練の実施をしている。	自治会や近隣住民の防災訓練の参加が行えていないので、コロナの状況に応じて参加の促しが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時には、ご本人様のプライバシーを配慮した声掛けをし、安心して頂けるよう努めている。	毎月のフロア会議では、入浴や排泄に関するプライバシーについての議題を職員間で話し合っている。また、介護職員による高齢者虐待防止委員会を設けて利用者一人ひとりの人権の尊重を考慮した支援が行えるように努めている。	プライバシーに関するマニュアルなどは設けているが、直ぐに職員が確認できるような場所での保管でないため、いつでも確認できるような状況が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の表情や行動から状況や状態を把握し、自己決定できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各ご利用者様のペースに合わせて過ごして頂けるよう、ご希望に沿いながら支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や整容など、出来る限りご本人様に決めて頂き、身だしなみやおしゃれができるよう支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時にメニューを書いたり、イベント時には食器を変更し雰囲気を変えるなど、食事への楽しみを持って頂けるよう努めている。	季節の行事に合わせた行事食などを毎月提供している。利用者が食事のメニューをホワイトボードに記載するなど、食事に関わることを支援している。コロナ禍においては衛生上の問題から利用者による調理は行っていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、一人ひとりの状態に合わせた摂取量を確認、把握するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師、歯科衛生士の指導のもとに、各ご利用者様に合った口腔ケアの実施を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様の排泄リズムを把握、記録し、声掛け誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、一人ひとりに合った時間での声掛けや誘導を行っている。なるべくトイレでの排泄が行えるようポータブルトイレを設置しオムツでの排泄を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整、下剤コントロール、散歩や運動などを行い、適切な排便ができるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿った入浴ができるよう支援している。 また、各ご利用者様の状態に合わせて、機械浴による入浴を提供させて頂いている。	入浴実施表を活用しながら、週2回程のペースで入浴を実施している。1階にはシャワーチェアを用意し2階にはリフト浴を設置しており、利用者の心身状況に応じた入浴が行えるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各ご利用者様の生活習慣を把握、理解し、安心して休息ができるよう声掛けを行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者様の薬事情報、副作用などの記載があるものをファイリングし、すぐに確認できる状態を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、各々に合った役割を見つけ出して楽しみのある生活を送って頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けたり、ホーム敷地内(玄関前・駐車場)で談話しながらおやつを召し上がったり、外の空気を感じて頂けるよう支援している。	施設の駐車場などを利用して、おやつ提供などは気分転換を図るために外で行うことがある。近隣の公園までの外出や買物外出、食事外出なども行っていたが、感染予防のためコロナ禍では控えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金システムに変更となり、金銭所持や使用はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との電話などの支援、大切な人への手紙などはポストまで付き添い投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ご利用者様の状態の把握とともに、不快感や混乱をきたす物は置かないよう配慮している。 また、フロア・玄関・廊下などは、季節感を取り入れた制作物で、四季を感じて頂けるよう努めている。	利用者が過ごす共有スペースのフロアには、季節に応じた飾り付けをし、利用者と一緒に制作している。レクリエーションの書道などの作品も貼り、毎月での模様替えを行っている。フロアは定期的に換気を行い、冬場には加湿器を置いて過ごしやすい環境作りの整備も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いた雰囲気を作り、ご利用者様同士が思い思いに過ごして頂けるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物や愛着のある物をお持ちいただき、居心地良く安心して過ごして頂けるよう配慮している。	利用者の思い出がある写真や置物、人形などを持参してもらい飾っている。入居前に自宅で使用していたイスなども持参してもらい、ベッドの配置なども自宅で生活していた部屋に近い配置にするような配慮も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLを十分に把握し、自身で出来ることがスムーズに行えるよう、安全な環境作りに努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームみんなの家・三郷

作成日: 令和 3年 11月 4日



目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期に関する支援方法が職員全員に周知されていない現状がある。	チームケアとして情報共有を大切にする。その情報を職員全員が周知し、安心して支援が出来るようにする。	外部研修に積極的に参加したり、事業所内でも定期的に勉強会を開催していく。	12ヶ月
2	35	自治会や近隣住民の参加が出来ていない。	自治会や近隣住民に参加して頂けるようにする。	訓練時には、自治会や近隣住民に事前にお知らせの手紙を配布していく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。